



絶妙のアンサンブル、爽やかなハーモニー、煌めくストリング Spice of Finnish Trad. ～カンテレ “女子” カルテット～



左から ユッタ・ラーメル レーニ・ヴェゲリウス マイヤ・ボケラ アンナ・ヴェゲリウス

楽器博物館 20 周年記念の最後のレクチャーコンサート。森と湖の国フィンランドから、初来日の女性 4 人グループ“カルデミンミット”をお迎えしました。伝統楽器のカンテレと歌声で、フィンランドや北欧の伝統曲と、伝承詞にグループメンバーが曲を付けた作品の数々を披露していただきました。初の日本ツアーは、東京公演は完売で追加公演が開催されるほどの人気。浜松公演は今回の日本ツアーの中で最も演奏曲数も多く、そのうえマイクを使わない自然の響きでの演奏でした。

カンテレは、民族叙事詩「カレワラ」に創生物語がある伝統の琴（チター）で、歴史は 1000 年とも 2000 年とも言われますが、現存する最古のカンテレは 17 世紀末のもので、当初は 5 弦の小さなものですが、現代のコンサート用は 40 弦ほどの大型のもので、また 10 数弦や 20 数弦など、その中間のサイズのものもあります。金属弦の響きは余韻が長く、とても透明感があります。

カルデミンミット (Kardemimmit) とは、『スパイスの効いた女の子』という意味で、その名の通り、チャーミングな可愛さと、ピリッとした辛みとを兼ね備えた、温かいけれどクールな、クールだけれど温かいグループでした。メンバー全員がカンテレと歌を担当し、大型のカンテレ 1 台はメンバーが交代で担当。15 弦の中型カンテレは曲ごとに使う

台数が変わります。

フィンランドに伝わる抒情詩集「カンテラタル」の中の最もよく知られた詩「愛しい人を待ちながら」、叙事詩カレワラの中から「死の女神」、「火の起源」、スウェーデンの伝統曲「気ままな愛」、ハンガリー伝統歌「墮落した娘」など、14 曲を演奏。カンテレの透明感あるキラキラと輝くような音色に、4 人のフィンランド伝統の発声法による素朴で美しい歌声が溶け合い、会場は清らかな空気に包まれました。

4 人は、フレーズ、呼吸、ダイナミクス、言葉、リズム感、テンポ感など、どれもが完璧にシンクロしており、稀にみる極上のアンサンブルでした。彼女たちは CD デビューして 10 年余りだそうですが、それ以前からも一緒に演奏活動をしており、これを含めるとアンサンブル歴は 15 年以上になります。時間をかけなければ絶対に到達しえないレベルの緻密なアンサンブルでした。

伝統の楽器が、このように若い世代に引き継がれて人気を上昇させているフィンランドの姿は、素晴らしいと思いました。コンサートの中で「これからの夢は？」との質問に、「日本でまた演奏をすることです」再来日が楽しみです。

日 時：平成 28 年 3 月 4 日（金） 19:00 ～ 21:00
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：カルデミンミット 入場者：115 人

第 177 回レクチャーコンサート〈フォルテピアノとその時代 第 6 回〉

「透き通る叙情～百年前のスタインウェイで聴く情熱のグリーグ～」



日 時：平成 28 年 1 月 13 日（水） 19:00～21:00
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：坂本真由美
入場者：72 人

楽器博物館 20 周年の 1 年間を通して開催してきたレクチャーコンサートシリーズ「フォルテピアノとその時代」の最終回「エピソード 透き通る叙情～百年前のスタインウェイで聴く情熱のグリーグ～」を開催しました。坂本真由美さんをお迎えし、オールグリーグプログラムで「ペール・ギュント 作品 23 より 朝」、「ピアノソナタ ホ短調 作品 7」などを演奏していただきました。

使用した楽器は 1911 年にハンブルグで製作されたスタインウェイ & サンズ。グリーグ (1843-1907) が亡くなった少し後に作られたピアノです。

グリーグ国際ピアノコンクールで第 1 位を受賞され、ノルウェーで演奏される機会も多いという坂本さん。グリーグの音楽は北欧ならではの澄み切った透明感と爽やかさ、土の香りを感じさせる民族性、多彩な色彩の中から湧き立つような優しさがあるといえます。

フォルテピアノの歴史の様々な顔を魅せてくれた今シリーズ。締めくくりにあふさわしい華やかなコンサートとなりました。

本年度 7 回目・中学生特別授業、インドネシアの文化を知る

この特別授業は、浜松市内の聖隷クリストファー中・高等学校と楽器博物館が共同で行っているもので、楽器や音楽を切り口に世界各地の文化や歴史、人々の暮らしなどを学ぶ総合学習として実施しています。毎年同校の中学 1 年生を対象に行い、本年度 7 回目となります。

まず中学校で事前学習を受けた後、生徒自身が興味を持った事を調べていきます。その後、楽器博物館に一日滞在し、展示品を見たり、触ったり、音を聴いたりしてこの博物館ではないと体験できない授業を受けます。展示品の解説では、全ての展示室を見学し、同校教員による説明が無ければ、見逃してしまいそうな楽器のエピソードに興味津々に聞き入っていました。演奏体験ではインドネシアの伝統楽器「ガムラン」を体験し、1 時間半ほどで簡単な曲が一曲演奏できるようになりました。

実際に見て気がついたことをワークシート一杯に記入する熱心な生徒の姿も見られ、本年度も充実した授業を実施することができました。



日 時：平成 28 年 1 月 29 日（金） 9:30～15:00
会 場：楽器博物館 展示室
講 師：田上知穂（聖隷クリストファー中・高等学校教員）、
梅田徹（当館学芸員）
対 象：聖隷クリストファー中・高等学校 中学 1 年 44 人

楽器博物館友の会 第 13 回学芸員との夕べ

「産業革命とイギリスのハーブシコード～近代への道～」



開催日：平成 28 年 2 月 13 日（土）
出 演：中野振一郎、川田知子
演奏会：楽器博物館 天空ホール 17:45～18:45
交流会：研修交流センター 51 室 19:00～20:00
入場者：121 人
参加者：105 人

楽器博物館友の会は、博物館を応援してくださる市民の方が中心となり平成 14 年に発足した会です。

第 13 回となる「学芸員との夕べ」の前半は、世界的チェンバロ奏者の中野振一郎さんとヴァイオリン奏者の川田知子さんが出演し、モーツァルト作曲「ヴァイオリン伴奏付きハーブシコードソナタト長調 (K.27)」や、ヘンデル作曲「ヴァイオリンと通奏低音の為のソナタニ長調」などが演奏されました。中野さんによる軽妙なトークも楽しみながら、鮮やかな演奏に聴き入りました。

後半は会場を 5 階へ移し、会員の方と当館職員、コンサートに出演された中野さん、川田さんも加わり、軽食を囲みながら交流を深めました。過去最高の 100 名以上もの参加があり、盛大に開催することができました。

楽器博物館を応援してくださる友の会の存在は、当館にとって大変心強い支えとなっています。今後も会員の皆さんと顔の見える交流をさらに深めていけたらと思っています。

～古楽からブルーグラスまで～天空ホールで生演奏を聴こう!!

リコーダーとチェンバロ

当館職員の桐畑奈央（リコーダー）と村尾芽衣さん（チェンバロ）による古楽の演奏を楽しみました。オットテール作曲「組曲ニ長調 Op.5-3より プレリュード」や テレマン作曲「ソナタ へ短調」、チェンバロのソロでは「調子の良い鍛冶屋」で知られているヘンデル作曲「ハープシコード組曲 第5番 ホ長調」が演奏されました。リコーダーの歴史や種類などの解説もあり、学校のイメージとはまた違うリコーダーの良さを感じることでできるコンサートでした。

日 時：平成 28 年 1 月 17 日（日）14:00、15:30（各 30 分）
出 演：村尾芽衣、桐畑奈央（当館職員） 入場者：107 人



ブルーグラス

昨年末に結成されたばかりのフルムーンブルーグラスバンドの皆さんに演奏していただきました。「ブルーグラス」は主にバンジョー、ギター、マンドリン、フィドル、コントラバスの 5 つの楽器が使用されるアメリカ発祥の音楽です。「Why don't you tell me so」や「オハイオ川の岸辺に」、「Pick me up on your way down」などが演奏されました。ブルーグラスの明るく軽やかな音色を存分に楽しむことができました。

日 時：平成 28 年 2 月 14 日（日）14:00、15:30（各 30 分）
出 演：フルムーンブルーグラスバンド 入場者：100 人



フルートとピアノ

この日は当館職員の松尾圭子（フルート）と藤田麻貴子さん（ピアノ）による演奏でした。ビゼー作曲「アルルの女」、ベーム作曲「グランド・ポロネーズ 作品 16」、などのフルート作品だけでなく、ピアノのソロではベートーヴェン作曲「エリーゼのために」が演奏されました。フルートのための作品を聴く期待は少ないと思いますが、多くのお客様が足を止め、フルートの音色に聴き入っていました。

日 時：平成 28 年 3 月 6 日（日）14:00、15:30（各 30 分）
出 演：藤田麻貴子、松尾圭子（当館職員） 入場者：122 人



バンジョーとアコーディオン

稲川友則さん（バンジョー）と柴田貴子さん（アコーディオン）による演奏を楽しみました。「スタイル・ミュゼット」、「真実のワルツ」、ピアソラ作曲「リベルタンゴ」などを演奏していただきました。今回はいくつかのバンジョーをお持ちいただき、そのうちの 1 つは 120 年前のバンジョーということで、大変貴重な音色を聴くことができました。軽快なバンジョーとインパクトのあるアコーディオンのアンサンブルでした。

日 時：平成 28 年 3 月 20 日（日）14:00、15:30（各 30 分）
出 演：Banjo&Accordion（稲川友則、柴田貴子）
入場者：220 人



